



ファン・デ・ナゴヤ 美術展

名古屋市市民文化振興事業積立基金(文化基金)を活用し、
1999年から開催している美術展です。

「こんな美術展を実現したい!」というあたらしいアイデアを募集し、
採択後には進捗報告会をステップアップの場として、企画を実現します。

会場

名古屋市民ギャラリー矢田

名古屋市東区大幸南一丁目1番10号 カルポート東3F/4F
TEL 052-719-0430

交通アクセス

- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口南へ徒歩5分
- ゆどりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
- 市バス「大幸」下車 徒歩5分 (名駅15号系統、東巡回系統)

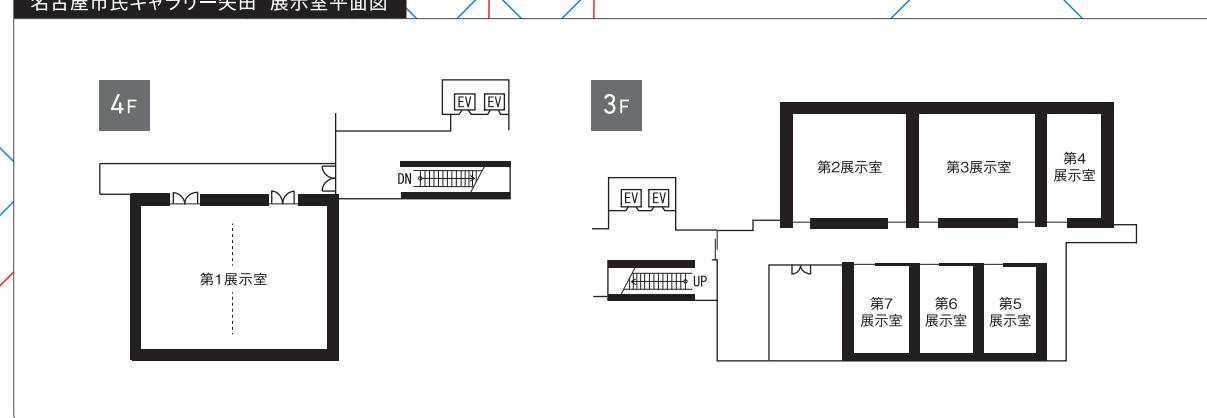
*駐車場102台は東文化小劇場・東スポーツセンター・東図書館と共用です。

専用駐車場はございません。

*他施設駐車場により入出庫が込み合う場合がございますのでご注意ください。



名古屋市民ギャラリー矢田 展示室平面図

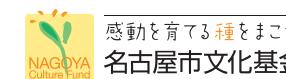


*中止あるいは内容を変更する場合がありますので、お出かけ前に必ずウェブサイトやお電話にてご確認ください。
事業団ウェブサイト「重要なお知らせ」またはTEL:チケットガイド052-249-9387(平日9:00~17:00)



お問い合わせ

公益財団法人
名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9385
<https://www.bunka758.or.jp/>



Nagoya,
City of Design

[名古屋市文化基金事業]

次世代キュレーター & アーティストによるアートエキシビション

ファン・デ・ナゴヤ 美術展 2025

2025.1.10 [Fri.] ~ 1.19 [Sun.]

入場無料

*14[Tue.]は休館



Fan De Nagoya
Art Exhibition

会場

名古屋市民ギャラリー矢田

10:00 ~ 19:00

*13日(月・祝)、19日(日)は17:00まで

開館時間

主催

ファン・デ・ナゴヤ美術展2025
「YAKUDOW ~踊りの行方と身体表現」
「木の外側から森の内側まで」
「フレームの中、フレームの外、ゆらぎの境界」各実行委員会

公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

4F 第1展示室

YAKUDOW ~ 踊りの行方と身体表現

企画・出品作家 辻 将成

“踊りは儚い”そして時間は流れ止まらない、瞬間的な時を可視化した踊りの痕跡と不可視の身体、空間の中にある躍動、アリティーを見ていただきたい。辻将成にとってダンスは生きる証であり、表現する事で私自身が存在する理由に置き換わることもあります。本展は辻将成が学生時代から現在も続いているダンス(BREAKIN')を軸に、身体表現を扱い、人間が残す時間、過ぎ去っていく過去を、未来に送る事を考え発想した企画です。芸術的な分野として浸透するダンスですが、昨今スポーツとしての侧面も大きく加速しているダンス界。

BREAKIN' という分野の中に身を置き活動しながら、アーティストとして生きる辻将成は、自分がダンスに出会った当時では考えられない社会や環境の変化に抗いながら、独自の踊り・身体表現を突き詰め、作品制作・発表を行っています。我々はどこへ向かうのか、そして“今”という時間をどのように残し未来に送るのか。辻将成のダンスが放つアートとしての側面、身体表現から生み出される人間の躍動、エネルギーを感じていただけた展覧会です。

Artist profile
辻 将成 Masanari Tsuji

身体の痕跡、踊りと空間・時をテーマに地元の三重県松阪市と、学生時代から活動の中心となっている愛知県を中心に作品制作・活動しているアーティスト(現代美術家)であり、B-boy(ブレイクダンサー)。日常動作からダンスマで様々な身体運動、身体のムーブメントを行い、影写・写真・ペインティングなど、ジャンルにとどわれず、身体のエネルギーが光る瞬間を可視化している。パフォーマンスが終わり、過去となった停まつを未来に送る事を意識し、様々な作品を生み出している。

関連イベント情報 参加無料
パフォーマンス・トーク
第1展示室 ※参加無料(要予約)
開催日時: 1月11日(土)15:30~
1月13日(月・祝)14:30~
1月19日(日)14:30~
定員: 各回先着20名
予約: <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeOsj1KAtGZCeaPINFxRi5bdVtKIAvAeW7qlOakqBZbPJtdSw/viewform>

QRコード





3F 第2~3展示室

木の外側から森の内側まで

企画・出品作家 佐藤健博

葉の落ちた街路樹の枝先が瘤のようになっているのを見て、特に植物に詳しくなくても、その形が昨日今日にできたものではないことは自明です。私たちの身の回りにある樹木の形は、人の都合に沿うよう定期的に管理されていますが、決して一方向力関係でつくられているわけではありません。枝先の瘤や肥大化した根などは、予め割り当てられたスケールには、樹木が干渉することで起こります。それは、成長によるさやかな逸脱が継続的に積み重なったものであり、(剪定など)人の要請に対する樹木側からの妥協点のような、双方から長い時間をかけ更新され続ける、関係性の履歴なのです。

本展示は、現代における人と植物との関わりを捉えなおす試みとして、剪定や間伐によって間引かれた樹木や、その一部を素材とした立体作品で展開されるインスタレーションです。制作には素材本来の見かけを構造的に複雑化する介入をしており、形の経緯や重さの不在性を顕著に視覚化して、「見える」ということに含まれる思い込みや齟齬を解体、再構築することを目的とし、これらの作品を「見間違いの構造」として提示します。

Artist profile
佐藤健博 Takehiko Satow

1978年生まれ。大学で油絵を学んだ佐藤は、絵画のイリュージョンについて、極度の近視、乱視である自身の視覚経験より「見えるということ」をテーマに作品を展開してきた。植物やそれにまつわる風景が度々モチーフや素材として扱われるのは、幼少期に祖父の造った庭で過ごした経験によるもの大きい。近年では、造園業など植物の専門的業種に勤務していた経験から、人と植物との視覚的関わりを視野に加え、剪定という行為がもたらす樹木への干渉と、時間によって作られる形の因果関係を、「見える」ということが起る時間的な幅と知覚のクラスターに重ねて表面化していくことを主軸とした制作活動を行っている。

NOMURA 野村財団

関連イベント情報 参加無料
トークイベント「木の形、森の形—剪定と樹木についてー」
第2展示室 ※参加無料(申込不要)
開催日時: 1月11日(土)14:00~15:00
聞き手: 田中真吾(美術作家・成安造形大学「キャンパスが美術館」学芸員)
定員: 先着30名程度





3F 第4~7展示室

フレームの中、フレームの外、ゆらぎの境界

企画 浅尾 楽 出品作家 門田健嗣、西尾秋乃

現代社会において、映像は主にスマートフォンやパソコンの画面で視聴されています。このように、映像の撮影から公開までが身近なものとなり、SNSで共有される映像は短時間で早いテンポや衝撃的な内容が主流となっています。その結果、現在の身近な視聴環境では、映像が本来持つ変化や細部の魅力が十分に伝わらない可能性があります。

本展示は、2人のアーティストによる作品を通じて、映像表現の新たな地平を探求し、視覚体験に再考を促す試みです。門田健嗣の作品は、建築や空間における表現を通して、物理的に映像フレームを拡張する手法を用いています。一方、西尾秋乃の作品は、映像フレーム内でフレ

関連イベント情報 参加無料
「3企画合同ギャラリーツアー」 第2展示室集合 ※参加無料(申込不要)
前半 1月11日(土)13:00~14:00 後半 1月18日(土)13:00~14:00

同時開催

4F 第1展示室「YAKUDOW ~ 踊りの行方と身体表現」
3F 第4~7展示室「フレームの中、フレームの外、ゆらぎの境界」









Artist profile
門田健嗣 Kenji Monden

デザイナー。1994年生まれ。建築設計事務所に勤務後、情報科学芸術大学院大学 終了。様々な素材とスケールを横断し、人間活動と地球の関係を直感させる作品を制作。近年では、映像を、物事を照らし情報を付与する光として捉え、映像を介して人と環境を観察する道具を作成している。主な活動に「自転車建築」があり、実験や制作過程をcritical cyclingで連載している。

Artist profile
西尾秋乃 Akino Nishio

1998年岐阜県生まれ。在住。自身が撮影した写真素材のフォト・コラージュを用いた作品制作を行う。映像表現を軸としながら、上映、展示、デジタルイメージなど、様々な形態の作品を発表している。

